

## 2013年3月期 中間決算について

2013年3月期(2012年度)連結中間決算は、東日本大震災の影響からの回復、本邦LCCの国内線新規就航等により、中間期としては2期ぶりの「増収増益」

通期連結業績予想は、2期ぶりの「増収増益」見通し。5月11日発表の前回予想から営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも上方修正

## 1. 航空取扱量について

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				前回見通し (5月11日 発表)
	2011年度 実績 A	2012年度 実績 B	【増減①】		2011年度 実績 C	2012年度 見通し D	【増減②】		
			数量 B-A	% B/Ax100			数量 D-C	% D/Cx100	
航空機発着回数(万回)	9.0	10.6	1.5	117.0	18.7	21.4	2.7	114.5	21.5
航空旅客数(万人)	1,370	1,688	318	123.2	2,885	3,386	501	117.3	3,469
航空貨物量(万トン)	95	97	2	102.0	193	194	1	100.7	190
給油量(万kl)	206	233	28	113.5	426	465	39	109.3	454

## (1) 2012年度中間期の実績【増減①】

- 東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響からの回復、本邦LCC2社の国内線新規就航等により、航空機発着回数、航空旅客数、給油量いずれも前年同期に比べ増加。
- 航空貨物量は、円高や海外経済低迷の影響により、特に輸出量が減少したものの、成田空港を經由し三国間を輸送する仮陸揚貨物が増加し、総量では前年同期に比べ増加。
- 尖閣諸島・竹島問題の影響は限定的。

## (2) 2012年度通期の見通し【増減②】

- 航空機発着回数及び航空旅客数は、尖閣諸島・竹島問題の影響を受けるものの、本邦LCC2社の国内線就航や冬ダイヤからの航空会社の新規就航・増便等もあり前期を上回る見通し。
- 航空貨物量は、海外経済の低迷が継続しており、ほぼ前期並みの見通し。
- 給油量は、航空機発着回数の増加に伴い前期を上回る見通し。

## 2. 連結決算について

(単位:億円)

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				前回予想 (5月11日 発表)
	2011年度 実績 A	2012年度 実績 B	増 減		2011年度 実績 C	2012年度 予 想 D	増 減		
			金額 B-A	% B/Ax100			金額 D-C	% D/Cx100	
営業収益	840	955	114	113.6	1,735	1,903	167	109.7	1,884
営業利益	109	202	93	185.2	213	340	126	159.4	309
経常利益	66	165	98	248.1	131	267	135	203.1	234
中間(当期)純利益	30	101	71	338.4	35	144	108	405.0	126

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

## (1) 経営成績の概要

営業収益は 955 億円（前年同期比 114 億円増）、営業利益は 202 億円（同 93 億円増）、  
経常利益は 165 億円（同 98 億円増）、中間純利益は 101 億円（同 71 億円増）の「増収増益」

- 営業利益は 202 億円：前年同期比 93 億円の増益。セグメント別実績は次のとおり
  - 空港運営事業【増収増益】：航空機発着回数及び航空旅客数は、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響からの回復、本邦LCC2社の国内線新規就航等により増加。給油量は、航空機材の小型化傾向は続いているものの、航空機発着回数の増加に伴い増加。空港使用料収入、旅客施設使用料収入、給油施設使用料収入いずれも増加。営業収益は前年同期比 15.1%増の 540 億円。営業利益 61 億円を計上（前年同期は 5 億円の営業損失）。
  - リテール事業【増収増益】：航空旅客数の増加により、子会社の物販・飲食収入及び一般テナントからの構内営業料収入が増加。営業収益は前年同期比 18.2%増の 247 億円。営業利益は前年同期比 38.6%増の 72 億円。
  - 施設貸付事業【増収増益】：事務室等の新規貸付、駐車場収入の増加等により土地建物等貸付料収入が増加。営業収益は前年同期比 2.2%増の 152 億円。営業利益は前年同期比 7.2%増の 66 億円。
  - 鉄道事業【増収増益】：成田スカイアクセスの線路使用料収入の増加等により、営業収益は前年同期比 20.1%増の 14 億円。営業利益は 2 億円。

## (2) 財政状態の概要

- 資産合計は、減価償却が進んだことによる固定資産の減少等により前連結会計年度末比 1.7%減の 8,875 億円。
- 負債合計は、社債の償還等により前連結会計年度末比 3.6%減の 6,419 億円。有利子債務残高は、前連結会計年度末比 3.8%減の 5,159 億円。平均金利は前連結会計年度末比 0.02 ポイント低下し 1.37%。無利子債務を加えた長期債務残高は、前連結会計年度末比 3.4%減の 5,767 億円。
- 純資産合計は、前連結会計年度末比 3.9%増の 2,455 億円。自己資本比率は、前連結会計年度末の 25.2%から 26.7%へ増加。

## (3) キャッシュ・フローの概要

- フリー・キャッシュ・フローは 203 億円のキャッシュ・イン：前年同期比 61 億円の増加
  - 営業活動によるキャッシュ・フローは、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、物販・飲食収入が増加したこと等から前年同期比 101 億円増の 342 億円のキャッシュ・イン。
  - 投資活動によるキャッシュ・フローは、空港容量拡大に向けた設備投資による支出が増加したこと等から前年同期比 40 億円増の 138 億円のキャッシュ・アウト。

## (4) 通期の連結業績予想

営業収益は 1,903 億円（前期比 167 億円増）、営業利益は 340 億円（同 126 億円増）、  
経常利益は 267 億円（同 135 億円増）、当期純利益は 144 億円（同 108 億円増）の  
「増収増益」見通し

- 航空機発着回数及び航空旅客数の増加により、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、物販・飲食収入を中心に増収となり、営業収益は増収、営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも増益を予想。
- 2012 年 5 月 11 日発表の前回業績予想からは、営業収益は 19 億円、営業利益は 31 億円、経常利益は 33 億円、当期純利益は 18 億円の上方修正。

(注) 業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。